

け

げ

箇音にして單子音の一つ。

けの濁音。

〔一〕動物の身體に生ずる草の如きもの。

〔二〕人の髪の毛。

〔一〕家がら。●家門。○「藤原家」「關白家」

〔二〕其家の流儀。○「二條家の書」「土佐家の書」

〔一〕き。●息。●いきほひ。〔二〕けき。●やうす。

晴の反對。表立たぬ事。●私。……公に對して。●不斷。……よそゆきに對して。○「褻の服」

食物。●飲物。●ごぜん。●めし。○「朝

け「夕け」

易の占に用ふる八種の名稱。すなはち乾、

兌、離、震、巽、坎、艮、坤。之を八箇の算木に

現はして其現はれ方により吉凶を占ふ爲め

のもの。

け 罪(名)

け 卦(名)

け 饌。飯。膳(名)

け 褻(名)

け 氣(名)

け 家(名)

け 毛(名)

け

け 筭(名)

け (名)

け (名)

け (自動)

け 下(名)

け 牙(名)

け 解(名)

け 偈(名)

け 夏(名)

げ (助名)

けい 磬(名)

けい 罪(名)

けい 桂(名)

けい 形(名)

けい 刑(名)

入れ物。●箱。●食器。

故。●結果。○源氏「いふ限なき願ひも立

てさせ給ふけにや平らかに事なりはてぬれ

來經の約音。○月日の經過する事。○萬葉

「君が行きけながくなりぬ」

消の約音。○萬葉「朝露のけやすき命」

「一」しも。●した。〔二〕下等。●下品。

「一」きば。〔二〕象牙。○「牙の笏」

かい。●解釋。●註釋。

佛德讚美の詩。(佛敎)

佛徒の四月十五日より七月十五日まで九十

日間庵室に籠居して佛道修行を爲す事。(佛

敎)

そうな。●らしき様子。○「寒げ」「うれし

け」「迷惑け」

古代樂器の名。……うちならしを見よ。

字を書く紙の上に引きたる線。

將棊の駒の名。桂馬に同じ。

かたち。

刑罰。

けい 計(名) 合計。●へ高。○「計二萬五千人」

けい 景(名) 景色。

けい 系(名) 系統。

けい 經(名) 「一」經書。「二」經度。

けい 徑(名) 直徑。●差渡し。○「徑五寸」

けい 兄(代) 男性朋友の尊稱。●君。●貴君。

けい 藝(名) 藝能。●技藝。

けい 雞婁(名) 舞樂の器具。舞人の頭に懸け抱^{ばち}もて打ち鳴らす一種の鼓。

けい 競馬(名) 競べ馬。●馬駆け。

けい 傾杯樂(名) 雅樂の曲名。

けい 刑罰(名) 罪に處する事。●仕置。

けい 輕薄(名) 人の性質又は思慮の重々しからぬ事。●浮薄。△(形)―輕薄なる。(副)―輕薄に。

けい 敬白(名) 手紙の末尾に記す詞。敬具謹言に同じ。

けい 藝人(名) 「一」遊藝を業とする人。「二」藝能の有る人。

けい 繼母(名) 義理の母。●まい母。

けい 警報(名) 用心せよこの報知。

けい 刑法(名) 罪人の罰の輕重を定めたる法律。

けい 輕蔑(名) 侮り輕んずる事。●ないぢしるにする事。△(動)―輕蔑す。

けい 輕便(名) 手輕に便利なる事。

けい 經度(名) 地理學上の詞。赤道と直角に南極より北極に畫したる想像の線。英國綠威天文臺を零度として東經幾度西經幾度と數ふるもの。

けい 雞頭(名) 草の名。秋の半。雞冠に似て美しく赤き花咲くもの。

けい 惠投(名) 手紙の詞。御贈與。●御めぐみ。

けい 藝道(名) 其藝術の道。

けい 雞頭花(名) 草の名。雞頭に同じ。

けい 雞德・慶德(名) 雅樂の曲名。

けい 計都星(名) 星の名。九曜の一つ。

けい 輕重(名) けいちゅうに同じ。

けい 京兆(名) 「一」左右京職の異名。「二」左右京職大夫の異名。

けい 刑場(名) 罪人を死罪に處する所。●仕置場。

けいちゅう

輕重(名) 重き事と輕き事と。

けいりやく

計畧(名) 謀。●策畧。

けいかい

境界(名) 境目。●堺。

けいかい

警戒(名) 用心。●注意。△(動)―警戒す。

けいかん

雞姦(名) 男色。

けいよう

形容(名) 〔一〕姿。●有様。〔二〕姿、有様、性質を其儘にも言ひ。又は他の物に比しよそへて言ひ顯はす事。△(動)―形容す。

形容詞(名) 語學上の詞。名詞代名詞を形容する詞。高き山「有難き御代」茫々たる海「迂遠の我等」の類。

けいようし

携帶(名) 身に附けて持つ事。△(動)―携帶す。

けいたい

境内(名) 社寺などの地面内。●地内。

けいたい

敬禮(名) 尊敬の意を表はす爲の禮拜。△(動)―敬禮す。

けいれん

痙攣(名) 病の爲に起る筋肉の引き釣り。

けいれん

輕率(名) 輕々しく事を行ふ事。△(形)―輕率なる。(副)輕率に。

けいそつ

系圖(名) 祖先以來の系統を記錄したる表。●系譜。

けいづ

系譜(名) 祖先以來の系統を記錄したる表。●系譜。

けいづ

系譜(名) 祖先以來の系統を記錄したる表。●系譜。

けいづ

系譜(名) 祖先以來の系統を記錄したる表。●系譜。

けいづ

系譜(名) 祖先以來の系統を記錄したる表。●系譜。

けいづ

系譜(名) 祖先以來の系統を記錄したる表。●系譜。

けいらん

鷄卵(名) 鷄の卵。

けいのう

藝能(名) 其身に覺えて持ち居るわざ。●藝術。●技能。

けいぐ

敬具(名) 手紙の末尾に記す詞。●敬白謹言など同じ。

けいぐ

螢火(名) 螢の光。

けいぐ

警官(名) 警察の官吏。

けいぐ

計畫(名) 企て計る事。●設計。△(動)―計畫す。

けいぐ

契約(名) 約束。●約定。△(動)―契約す。

けいぐ

桂馬(名) 將棋の駒の名。

けいぐ

經驗(名) 自ら其事を経こゝろむる事。●たぬす事。△(動)―經驗す。

けいぐ

輕減(名) 減らし輕くする事。△(動)―輕減す。

けいぐ

繼父(名) 義理ある父。●まゝ父。

けいぐ

繼夫(名) 後添の夫。●後夫。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいぐ

景物(名) 〔一〕其時節々々の景色の材料になるもの。春は霞、秋は紅葉の類。〔二〕主たる眺望の材料になるもの。山ならば木。海ならば水鳥の類。〔三〕商家にて物を賣る時。賣物に加へて贈る品物。

けいふく

敬服(名) 心より尊敬して服従する事。△

(動)―敬服す。

けいこ

稽古(名) 「一」古典古例を調べて明かにする

事。「二」古典古例に明かなる事。○正統記

「後字多の帝、そゆゝしき稽古の君にまし

く、しに」「三」學び習ふ事。△(動)―稽古

す。

けいご

敬語(名) 他人を尊敬するために使ふ言葉。

けいこ

警固(名) 守り固むる事。●用心の爲に附き添

ふ事。

けいこ

藝子(名) 藝妓に同じ。

けいこく

傾國(名) 美人の異名。

けいえい

經營(名) いさなむ事。●組み立つる事。●

計畫する事。△(動)―經營す。

けいゑい

警衛(名) 警戒の爲の護衛。●警固。

けいゑん

閨怨(名) 家に居て夫を戀ふる妻の嘆き。…

…おもに詩題に用ふ。

けいてい

兄弟(名) 兄と弟と。

けいゐん

桂屋(名) 雇人の口入を業とする家。●雇人

請宿。

けいさい

掲載(名) 掲げ載する事。●記載。△(動)―

けいさく

掲載す。

荊妻(名) 他人に對して吾妻を謙遜していふ

詞。●愚妻。

けいさい

繼妻(名) 後妻。●後添。

けいざう

經濟(名) 「一」經世濟民の意。「二」轉じて富

を増し用を節する方法。「三」又轉じて儉約。

けいざう

輕罪(名) 輕き罪。

けいざつ

警察(名) 直接に人民の保護を掌る職務。

けいざん

警察署(名) 警察事務を取扱ふ役所。

けいき

計算(名) 勘定。△(動)―計算す。

けいき

景氣(名) 様子。●模様。●有様。

けいぎ

藝妓(名) 宴席に侍して歌舞するを業とする女。

●藝者。

けいききゅう

輕氣球(名) 風船の一名。

けいめく

鷄鳴(名) 「一」雞の鳴く事。「二」雞の鳴く頃。

●夜の明方。

けいめく

(名) 「一」經營の轉。設け營む事。●周旋奔

走する事。○狹衣「御座敷きなごけいめい

しさわぐし」「二」警衛の轉。いましめまらる

事。

けいめくら

雞鳴樂(名) 雅樂の曲名。

けいし 京師(名) 京都に同じ。

けいし 罪紙(名) 罪を引きたる紙。

けいし 履子(名) 古代履物の名。革にて作りたるもの。

けいし 家司(名) 中古貴族の家の役人。……現今家徒の類。

けいし 撃子(名) 供御の御飯の下に敷く物。

けいし 啓示(名) 神自身の性質を物に觸れて人に悟らしむる事。●默示。(基督教)

けいし 揭示(名) 掲げて公衆に示す事。△(動)―揭示す。

けいし 經書(名) 儒教の道を教へたる書。四書五經の類。

けいし 警視廳(名) 現今官廳の名。警察事務の全權を掌る所。

けいし 卿相(名) 公卿に同じ。

けいし 輕少(名) 僅なる事。●些少。

けいし 啓上(名) 手紙の詞。申上ぐる事。

けいし 形狀(名) 形。●なりすがた。●形體。

けいし 霓裳(名) 天人または仙女の衣。

けいし 霓裳羽衣(名) 支那古代舞曲の名。

けいし 唐の玄宗帝が月宮の天人より傳へられしと

言ひ傳へたるもの。

けいし 形狀言(名) 語學上の詞。形容詞、副詞にしてク、シ、キ、ケレ又はシク、シ、シキ、シケレの語尾の變化を持つ詞。清し黒し戀し久しの類。

けいし 藝者(名) 藝妓に同じ。

けいし 稽首(名) 頭を地に付けて禮拜する事。△(動)―稽首す。

けいし 輕舟(名) 小舟。

けいし 閨秀(名) 才德學藝のすぐれたる婦人。

けいし 警備(名) 警戒の爲めの備へ。●ため。

けいし 警蹕(名) 警蹕に同じ。

けいし 天皇出御の時。其御先に立ちて人を追ひ拂ふ一種の儀衛。

けいし 啓白(名) いにくに同じ。

けいし 啓蒙(名) 童蒙の智を啓き導く事。書物の表題にては初歩、初等教育などの意に用ふ。

けいし 傾城(名) 「一」美人。「二」遊女。

けいし 形勢(名) 有様。●模様。●狀態。

けいし 磐折(名) 磐折に同じ。

けいし 磐の形の如く折るゝの意。◎腰を

くの字なりに折りて拜する事。

けいせき

形跡(名)

あこた。

けいす

啓(他動サ變)

皇后、中宮、皇太子に申し上ぐ

る。

けいす

敬(他動サ變)

うやまふ。●尊敬する。

けいす

慶(他動サ變)

祝ふ。●慶賀する。

けいす

經水(名)

月經に同じ。

けらふ

下薦(名)

官位のまた高からぬ人の稱。○源氏「下薦女房」同「下薦の更衣」同「下薦法師」

今昔「下薦殿上人」

けらう

下郎(名)

下男。●僕。

けは

下馬(名)

〔一〕馬より下るゝ事。〔二〕城門社前等

にて馬より下るべき所。●下乗。

けはれ

襄晴(名)

襄と晴と。●不斷とよそいきと。●

公と私と。

けはなし

蹴放(名)

門の下に渡したる横木。●敷居。

けはなす

蹴放(他動四段)

戸障子などを蹴て外れさす

けばく

繫縛(名)

不動明王の左手に持ちて悪魔を縛る

繩。○謡曲「明王の繫縛」にかけて攻めかけ

祈り伏せにけり」

げばふた

下馬札(名)

下馬すべき所に立つる制札。

げばふたひ

うぢやう

下馬札評定(名)

徳川時代

げばふたひ

城門の下馬札の下に供待して叩へ居る人々

げばふたひ

の評判。

げばえぐすり

毛生薬(名)

禿けたる處に毛を生やす爲

げばひやう

めの貼薬。

げはひやう

下馬評(名)

下馬札評定の略。

げに

(副)

殊に。●すぐれて。○源氏「ひまゝより

げに

見ゆる火の光。螢よりげにほのかに」伊勢

げに

いと哀しき事數まさりて有りしよりげに戀

げに

しくのみ覺えければ」△(形)一ける。

げに

實(例)

〔一〕なるほど。●いかにも。●他人の言

げに

ふ通り誠に。○源氏「物思ひ給へ知らぬ心

げに

地にもげにこそいと忍びがたう侍りけれ」

げに

〔二〕近古以後となりては。誠に。●じつに。

げにん

家人(名)

家來。

げにん

化人(名)

櫛化の人。(源氏)

げにん

下人(名)

下賤なる人。●下男。

げにん

外任(名)

地方官に任ぜらるゝ事。

げにん

解任(名)

免官。●非職。

けにくし

(形。形狀言ク活) にくし。●つらにくし。●人づきのわるい。●愛敬の無い。○源氏「初めの事は知られどけにくもてなすにつけて」

げにげに

(副) いかにも。●じつに。●(雅)

げにげに

(形。形狀言シク活) 尤らし。●いかにもそ

けにこし

牽牛子(名) 朝顔の異名。

けぼり

毛彫(名) 彫刻の詞。物の形を極めて細かく毛の如く彫刻する事。

げぼり

牙彫(名) 象牙の彫刻。

げぼん

下品(名) 下等の品位階級。○枕「九品蓮臺の中に下品といふとも」(佛教)

げぼり

外法(名) 惡魔外道の法術。●魔術。●妖法。(佛教)

げぼくめん

下北面(名) 六位以下の北面武士。(他動四段) 「一」取る。「二」人の氣を抜き取る。……鬼などが。(源氏)「三」様子にて其人の氣を察する事。

げどほし

(形。形狀言ク活) 遠し。●人氣遠し。●氣味

げどほし

わるし。(雅)

げどう

下等(名) 上等に反對の等級。●かさう。●下級。

げだう

外道(名) 「一」佛教より他の宗教を指して云ふ詞。●他宗。●異端。「二」鬼。●魔。

けたうじん

毛唐人(名) 顔に鬚を多く生やし居る故の名。「一」支那人。「二」外國人。●西洋人。

げどく

解毒(名) 毒消し。

けち

閹(名) 「一」官の明き。●缺員。○空穗「大臣けちの侍らざらんには如何でかは」(二)碁の詞。今いふため。○源氏「碁打ちにていけちさすわたり」

けち

結(名) 二人づゝ左右に別れ弓を射て勝負を決する遊。○圓融院御集「弓の結の頃宮わたらせ給ひて」

けち

(名) 「一」不吉の兆。「二」いふのなき事。●吝。

げち

臆病。……(俗)

げち

下知(名) 「一」上よりの仰せ。●差圖。●命令。△(動)下知す。「二」語學上の詞。命令を示す動詞。●行け見よの類。

けちかし

(形。形狀言ク活) 近し。●人氣近し。●なつ

けちかし

かし。(雅)

けちゝ

下女(名) 召仕の女。●下婢。●おさん。

けて

怪鳥(名) あやしき鳥。●妖怪の鳥。

けちらす

蹴散(他動四段) 蹴て散り亂れさせる。

げぢん

解陣(名) 禁中にて陣の座を取除く事。○續世

繼「廢朝さて清涼殿の御簾おろしこめられ。

云々。廿日解陣さかいひて對のはさまに

て御殿のみすなごも卷きあげられ少し晴る

いけしきなる」

けぢりん

結願(名) 「一」神佛に掛くる祈願の数々ある

時其最終の願。「二」日数を定めて參詣もし

くは讀經などする時其日数の満つる事。●

満願。

けちえん

結縁(名) 「一」佛法と縁を結ぶ事。●佛法と

親密の關係を生ずる事。(佛教)「二」轉じて

は唯親密になる事。

けちえん

掲焉 隠れ無くはつきりさ。●あらは。●い

やちこ。●いちじるく。△(形)「けちえ

んなる。(副)「けちえんに。○大鏡「御顔

の色月影にはえていさ白う見えさせ給ひし

に御髪ぐきのけちえんにめでたくこそ誠に

おはしまし「か」

けちめ

(名) 差別。●區別。○源氏「つぎく」に更に

優り劣るけちめふさしも見ね分れず」

けちみく

血脈(名) けつみくくに同じ。

けり

鳥(名) 鳥の名。鴨の類にて水邊に住み常に魚を

啄み合ふもの。

けり

(助動ラ變) 「一」過去をあらはす助動詞。きたり

などの詞を愛敬深く優美に餘情をこめてい

ふ時に用ふ。俗語にてはタライと譯すべし。

○古今「故郷さなりにし奈良の都にも色は

かはらず花は咲きけり」(咲イタライ)「二」

又た餘情をこめずしてきたりの意の處に

も用ふ。俗語にはたいたと譯すべし。○古

今「廷喜の御時歌めしける時」伊勢「昔男

ありけり」

けり

下痢(名) 病にて腹の下る事。△(動)「下痢す。

けり

外吏(名) 外官に同じ。地方官。

けり

(助動ラ變) けりの轉。文法上正格の詞つゝきな

らぬ時に用ふ。○「歌よみ給うけり」(給ひ

けりならば正格)「首き切つて捨ててん

けり」(捨て「けりならば正格)

けりぐ

下略(名) 以下を略する事。他の文章を引用す

けぬ (名) 絹に同じ。(雅)

けぬるし

(形。形状言ク活) 「(一)ぬるし。●あたいかし。○重之女集「こち風もけぬるくなれば我宿の梅にはひををり／＼が見る」(二)緩慢なる有様。●まだるし。

けぬき

毛抜(名) 鬚を抜く道具。鉄のやうに作れるもの。

ける

蹴(他動四段。古は下一段) 足先にて物を跳ね飛ばす。又は物を強く突く。

ける

(助動) けりの變化。○古今「春立ちける日よめる」縁なる一つ草さぞ春は見し秋は色々の花にぞありける」

けおとる

(自動四段) 劣る。

毛織(名) 織物の一種。黠なこの毛にて織りたる物の總名。

けおそろし

(形。形状言シク活) 恐ろし。●何さなく恐ろし。(雅)

けおん

下音(名) 低き音調。

けおさる

(自動下二段) おしたふさるゝ。●壓倒せらるゝ。

けなさめ

褒納(名) けはれに同じ。常用と秘藏と。●不随用と取つまきと。○宇治「けなさめの装束」

けはひ

(名) 「(一)様子。●有様。●けしき。○源氏「此人の御けはひ有様」同「まだ夜深きは」の雪のけはひいさ寒げなるに」(二)化粧。

けはし

喰(形。形状言シク活) さかし。●喰咀な。●急であふない。

けが

怪我(名) 「(一)あやまち。●過失。(二)負傷。外界(名) 我身を取圍む天地萬物および社會。

けかい

下界(名) 「(一)天上に對しては人間の住む國土。(二)國土に對しては龍女龍神などの住む龍宮城。……(佛教)

けがる

穢(自動下二段) きたなくある。●不潔である。●とろろ。

けがは

毛皮(名) 毛の着きたる儘の獸の皮。

けがれ

穢(名) 「(一)けがるゝ事。●不淨。(二)古代の制。其身不淨に觸れたる時の遠慮引籠。……神祇式に曰く「凡そ穢惡の事に觸れて忌むべきものは。人の死は三十日。産は七日。六畜の死は五日。産は三日。其(六畜の)肉

を喫ふ時は三日を限る。凡そ裹を弔ひ病を

問ひ。及び山作所に到り。三七日の法事に

遭ふ者は身穢れずと雖も當日内裏に参入す

べからず」(三)月経。

(名) 穢れに同じ。(雅)

けがらひ

穢(形。形状言シク活)

穢るべき有様。●不

潔な。●きたなし。

けがらふ

(自動四段)

けがるに同じ。(雅)

けかへ

蹴返(他動四段)

蹴てもどす。●幾度も蹴る。

けがし

(形。形状言シク活)

穢らはし。○萬葉「けがし

き宿」夫木「けがしき溝」

けがす

穢(他動四段)

穢れしむる。●よこす。

けた

桁(名)

家の棟に横に渡す材。又木造の櫓に渡す

横木。

けた

方(名)

「(一)四角。●方形。(二)すべて方形に一

區域を立てたるもの。○「伊豫の湯枯」

けた

下駄(名)

木製にして鼻緒をすけたる履物。●木

履。●足駄。

けだい

懈怠(名)

「(一)おこたり。●なまけ。(二)心の

たゆみ。●油斷。

げたい

外題(名)

書物、芝居などの題號。

けたふ

蹴倒(他動四段)

蹴て倒れさせる。

けたかし

(形。形状言ク活)

高尚なる。●上品なる。●威嚴ある。

けたつ

蹴立(他動下二段)

蹴て立たしむる。○「波を蹴

立て」

けたつ

解脱(名)

人間界の迷を解き苦を脱はなかるゝ事。

(佛教)

けたゆき

桁行(名)

家の棟の長さ。

けたし

蹴出(名)

婦人の腰巻の異名。

けたし

蓋(副)

「(一)推量するに。●多分。●大概。●おほよそ。(二)若しも。●萬一。○萬葉「わ

がせこがけたしまからば白妙の袖を振らさ

れ見つゝ忍ばん」

けたしくも

(副)

けたしに同じ。○萬葉「なぞ鹿のわ

びなきすなるけたしくも秋野の萩やしゝに

散るらむ」

けたしち

(副)

けたしに同じ。(萬葉)

けたもの

獸(名)

四足獸の總名。牛馬犬猫の類。

けれ

(助動)

けりの變化。○「人にかくさ告げければ」

けれど

(副)

「はかなきものは人の身にこそありけれ」

然れどもに同じ。

けれつ

下劣(名) 下賤にして劣等なる事。○謡曲「況

んや下劣貧賤の報に於てなや」

けそん

家損(名) 一家の恥辱。(源氏)

けそう

顯證 けせうに同じ。(形) けけそうなる。(又) け

けさう

懸想(名) 戀人に思を掛くる事。●戀慕。△(動)

一懸想す。(又) 一懸想す。(雅)

けさう

化粧(名) 顔形をつくる事。●おつくり。●け

しやう。△(動) けさうす。(雅)

けさうばむ

(自動四段) けさうだつに同じ。(源氏)

けさうたつ

(自動四段) 戀慕めく。●戀慕の點に關す

る。(源氏)

けさうぶ

(自動上二段) けさうだつに同じ。(源氏)

けさうぶみ

懸想文(名) 「一戀人に贈る文。●痴語文。

(二) 昔し京都にて懸想文に擬し正月元日に賣り歩きたる一種の紙札。……懸想文賣を見よ。

けさうぶみうり

懸想文賣(名) 昔し京都にて正月元日

の吉例として懸想文を賣り歩きたる人。……

近世奇跡考に曰く「淺井了意が曾呂利狂歌咄(寛文十二年板本)に曰。往常正月元日

のあしたより十五日まで。年毎に懸想文さて賣りけり。其出立は。赤き布衣に袴のそげたかくさり。猶それより前には烏帽子を着せりとかや。中ごろは鬘笠をかぶり覆面して都の町々を賣りけり。是を買ふ人あればはそき疊紙の中に。洗米二三粒入れたるを懸想文となづけて渡す。一錢より百錢まで。代は人の心にまかす。さてその祝言は買ひける人あるひは夫婦のかたらの事。或は商賣の事。又は物かく事。その外何にても望む事を。さまざまめでたくいひつゝけて打ち通る。いさおもしろく賣りける詞やさしう聞えしを。時世のありさまにおしうつされ。今はみな絶えけるにや。此ごろの若き人は知れたるもなし。是は祇園の大神人がなりや。又は桂の里より出づる男にや。その出づる所を知らず。云々(以上狂歌咄)按ずるに。懸想文とはいへど。女文のさまにかけるものにはあらず。紙符を懸想文となづけて。いまだ嫁せざる女の良縁をいのりしものならぬ。已に寛文の比

けさうびと

たえたる事。本文以て證すべし。
懸想人(名) 「二」他人を懸慕する人。「二」他人に懸慕せらるゝ人。(雅)

けさうせかい

華藏世界(名) 蓮華藏世界の畧。◎極樂世界の一名。(佛敎)

けそく

花足(名) 花の形に作りたる箱、机、臺などの足。○源氏「左は紫檀の箱に蘇枋の花足」

下足(名) 履物。

けつ

闕(名) 「二」朝廷の御門。「二」朝廷。

けつ

闕(名) 闕くる事。

けつ

血(名) ち。●血液。

けつ

傑(名) 豪傑。

けつ

決(名) 決定。●決議。

けつ

結(名) 結ぶ事。●結局。●結尾。

けつ

(他動四段) 消すに同じ。(雅)

けつ

闕員(名) 缺けたる人数。

けつ

血路(名) 敵の圍を切り破りての遁げ道。

けつ

結論(名) 結尾の議論。

けつ

結髪(名) 髪を結ぶ事。△(動)―結髪す。

けつ

血判(名) 指を刺して其血を判のやうに押す事。誓文などに用ふるもの。

けつ

潔白(名) 少しも穢れざる事。●清淨。

けつ

月迫(名) 「二」月末。「二」特に十二月の末。

けつ

缺乏(名) 缺けて乏しき事。△(動)―缺乏す。

けつ

月俸(名) 「二」一ヶ月の賄料。「二」月々の俸給。

けつ

毛布(名) 英語ふらんけつとの略。◎毛氈に似て

けつ

血統(名) 血筋。●血脈。

けつ

決闘(名) 果たし合ひ。

けつ

決定(名) けつていに同じ。

けつ

削花(名) 木を削り掛けて花の形に作りたるもの。物の飾などに用ふ。(雅)

けつ

削掛(名) けつりばなに同じ。

けつ

梳櫛(名) 髪を梳る事。●髪を櫛にて解く事。(雅)

けつ

削木(名) 神に奉る幣又は人に贈る文などを挾むため皮を去り削りたる木の串。今の神

けつ

前の幣を挾みたる串は其遺制なるべし。○蜻蛉「立文にて削木につけたり」

けつ

削氷(名) 食品の名。削りたる氷。

けつ

削氷(名) 食品の名。削りたる氷。

けづる

削(他動四段)

少しづゝ切り除く。●切り捨つる。

けづる

(他動四段)

くしけづる。●髪を櫛にて解く。

けつるゐ

血涙(名)

血の涙。

けつか

闕下(名)

禁門の下。

けつか

月下(名)

月の光のさしたる所。

けっかい

結界(名)

或る場所を佛法の土地と定むる事。

釋門事物紀原「桓武天皇延暦四年傳教大師始て叡山に登りて草庵を結び。同く七年根本一乘止觀院(今の中堂是也)を建立したまふに當たり大界地三拾六町さなし東限ニ比叡社井天埴ニ南限ニ登美溪ニ西限ニ大比叡峯小比叡南峯ニ北限ニ三津濱横川谷ニこれを結界す。是れ我國淨刹結界の始なり」

けっかふざ

結跏趺坐(句)

佛菩薩などのすわりかた。あぐらをかくに似たるもの。毗婆沙論に曰く。是相眞滿安坐義。聲論云。以ニ兩足ニ跏趺致兩膝如ニ龍盤結。脇尊者云。是吉祥坐。(佛教)

けつえう

月曜(名)

日曜の次の日。

けつたん

決斷(名)

斷然決定する事。△(動)―決斷す。

けつたんし

決斷所(名)

裁判所。

けつぞく

血族(名)

血筋の親族。

けつく

結句(名)

詩歌の結末の句。

けつく

結句(副)

つひに。●さうく。●つまり。

けつく

月光(名)

月の光。

けつく

結果(名)

出來ばえ。●成績。

けつく

血塊(名)

血のかたまり。

けつく

闕書(名)

天皇又は貴人の御名の文字を諱みて其字を一畫闕きて書く事。

けつやく

結約(名)

契約を結ぶ事。●約束。△(動)―結約す。

けつまつ

結末(名)

物事の終。●結尾。

けつまつ

月末(名)

月の末。

けつまつく

蹴蹶(自動四段)

物を蹴て蹶く。

けつげ

結夏(名)

夏を執行する事。……夏を見よ。(佛教)

けつげ

毛付(名)

毛色。○散木「望月の駒のけつげを逢坂の杉間の影に合はせてぞ見る」

げけい

月卿(名)

公卿の異名。

げけい

月經(名)

婦人の月役。●めぐり。

げつふ

月賦(名)

借錢など月々に割り當て、拂ひ返す事。

けこん

血痕(名) 血の痕。

けっこん

結婚(名) 夫婦になる事。●婚姻。●婚禮。△

けっこう

結構(名) (一)組立。(二)他に優りて善美なる事。△(形)―結構なる。(副)―結構に。

けつがふ

結合(名) むすびあふ事。●合同團結する事。△(動)―結合す。

けつえん

血縁(名) 血統の續きなる親族。●血筋。●血族。

けつえき

血液(名) 血。●血の汁。●ちしほ。

けつてい

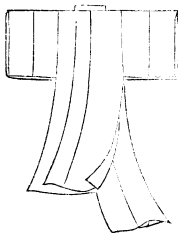
決定(名) 決し定むる事。●取極め。△(動)―決定す。

けってん

缺點(名) 缺けたる所。●落度。●缺目。

けつツえき

闕腋(名) 袍の一種。腋を縫ひ合はせざる武官の服。但し參議以上の人は武官を兼ねても之を用ひず。(圖)



けっさい

潔齋(名) 身を清めて物思ひする事。△(動)―

潔齋す。

けっさん

決算(名) 總勘定を爲す事。△(動)―決算す。

けっさく

傑作(名) 詩文、繪畫、彫刻等のすぐれてよく出

來たる物。

けっき

血氣(名) 少年の時の進取の氣。

けっき

蹶起(名) 飛び起くる事。●奮發して立つ事。△

(動)―蹶起す。

けつぎ

決議(名) 評議して決定する事。●議決。△(動)―決議す。

けっき

穴居(名) 山腹などに穴を堀りて住む事。△

けっき

(動)―穴居す。

けっき

結局(名) 事の終り。●結末。●落着。●終局。

げっしん

月琴(名) 樂器の名。琵琶に似て胴丸く近年清國より舶來せしもの。

げっき

血球(名) 醫學上の詞。血液の形を造る小

ちき球。

げっき

月球(名) 月輪。

げっき

月宮(名) 月宮殿に同じ。

げっき

月給(名) 月々の給料。

げっきうでん

月宮殿(名) 月の世界に有りき想像せ

し宮殿。

けつめ

距(名) 雞などの脛の後に附きたる爪。

けつみやく

血脈(名) 血統。●血筋。

けつし

決死(名) 死ぬるを覺悟する事。

けつじ

關字(名) 文中に天皇および高貴の人に關する文字ある時。其前を一字、二字、三字もしくは一行明け置く事。

は一行明け置く事。

けつし

關所(名) 徳川時代の制。罪によりて領地、家宅などを官に取り上ぐる事。

けつしやシヨウ

結晶(名) 科學上の詞。金石水土等の物體の一定の形に固まる事。△(動)―結晶す。

けつしよく

血色(名) 顔色。

けつしよく

月蝕(名) 地球が太陽と月との間に挟まりたるため月の面の虧けて暗くなる事。

けつしよく

月色(名) 月の色。

けつしや

月謝(名) 學問技藝などの傳習料として贈る月々の謝金。

けつして

決(副) かならず。●ごうあつても。○「御違約は決して仕るまじ」

けつび

結尾(名) 物事の終り。●結末。

けつせん

血戦(名) 劇烈なる戦。

けつせん

決戦(名) 死を決し戦ふ事。△(動)―決戦す。缺席(名) 出づべき席に出でぬ事。△(動)―缺席す。

けつす

決(他動サ變) 極むる。●定むる。●決定する。

けつす

決(自動サ變) 定まる。●極まる。

けつす

結(自動サ變) 病にて大便秘の通ぜぬ。

けねん

懸念(名) 心に懸かる事。●心配。●苦勞。

けな

(助動) そうな。●さ云ふ事である。○「昔はかやうな人もあつたけな」(俗)

けながし

(形。形狀言ク活) 月日の長く經過する有様。○萬葉「君がゆきけながくなりぬ山たつの迎へかゆかん待ちには待たじ」

けなつかし

(形。形狀言シク活) なつかし。●何そなく

けな

なつかし。(源氏)

けなん

下男(名) 下僕。

けなげ

健氣(名) 「一」氣力の強き事。●豪膽。(著聞)

けな

「二」殊勝。●奇特。●感心。△(形)―けなげなる。○謡曲「けなげなる事を仰せ候ものかな」(副)―けなげに。

けな

(他動四段) 惡し様にいひなす。●くさす。●いひおさす。

けら 蟻蛄(名) 虫の名。土の穴に住みて夏秋の頃蚯蚓

けらい に似たる聲して鳴くもの。

けらい 家來(名) 召仕の者。●家人。●臣隸。

けらく 快樂(名) くわいらく。●愉快。●樂しみ。(雅)

けらく (副) けるを延べたる詞。◎けるには。●ける

けらく やう。○「いひけらく」思ひけらく」

げらく 下落(名) 物の價の低くなる事。△(動)―下落

す。

けらし (助動) けるらしの略。◎たらしいわい。●た

けらし そうな。○新古今「ほのゝと春こそ空に

來にけらし天のかぐ山霞たなびく」

(助動) けるにあらずや。●たてはないや。

けらずや ○萬葉「梅の花咲きたる園の青柳はかづら

にすべくなりけらずや」

(助動。特狀) けんに同じ。

けん 縣(名) 行政區劃の名。便宜上全國を分ちて四十

餘となしたるもの。

けん 乾(名) 卦を見よ。

けん 權(名) 「一」力。●勢。●威。二「權利。

けん 間(名) 曲尺六尺の距離。

けん 件(名) 事件。●一件。

けん 券(名) 手形。●切符。

けん 拳(名) 遊戲の名。手先を屈伸して種々の形を表

し勝負を争ふもの。其種類多し。

けん 卷(名) 卷物。●書物。

けん 劍(名) 「一」つるぎ。●太刀。●刀。二「特には

兩又にて切先のハ形に尖りたる刀。

けん 嶮(名) 嶮しき事。●嶮岨。

けん 儉(名) 儉約。

けん 驗(名) 試驗。●經驗。

けん (助動。特狀) 「一」過去を推し量る詞。●けるなら

ん。●たであらう。○拾遺「別れてふ事は誰

かは始めけん苦しきものと知らすやあり

けん」二「からん。●くあるならん。○新

勅撰「櫻花散らば惜しけん玉銚の道ゆきぶ

りに折りてやざらん」

けん 驗(名) 祈禱醫療などの効驗。●きいめ。●しる

し。

けん 嚴(名) 嚴重。●嚴格。

けん 權威(名) 權力威勢。

けん 檢印(名) 検査済の調印。

けん 原因(名) 事の起り。●起因。

けん げんいん

けんろ

言路(名) 下民の事情を執政者に陳述して通ずる路。

けんらうゐん

元老院(名) 國家の元老を以て組織せられたる立法院。維新後設置せられ現今は廢せられたり。

けんば

支蕃(名) 支蕃察の略。

けんばい

献盃(名) 盃をさす事。

けんばい

勸盃(名) 〔一〕盃を勸むる事。〔二〕盃を勸むる役。●酌人。

けんばれう

支蕃察(名) 官廳の名。治部省に屬して外國人、僧尼等の事を掌る役所。官吏は頭、助、允、屬あり。●ほふしまらびさのつかさ。

けんぼく

建白(名) 意見を官に申し上げる事。●建言。●建議。△(動)―建白す。

げんに

現(副) 目の前に。●まのあたり。●眼前。●現在。

げんに

嚴(副) 嚴しく。●嚴重に。

げんにん

現任(名) 現今其任にある事。

げんにんじがき

建仁寺垣(名) 垣の一種。割竹を透間なく並べて編みたるもの。◎最初京都の建仁寺にて造りたるに習ひし故の名。

けんぼなし

枳椇(名) 木の名。夏の頃花咲きて枝の如く腰になりたる實を結ぶもの。其味甘し。

けんぼん

献本(名) 書物を献納する事。△(動)―献本す。

けんぼん

原本(名) もその書物。●原書に同じ。

けんばう

權謀(名) 策略。●政略。●謀計。

けんぼふ

憲法(名) 〔一〕群臣百官の遵奉すべき條規。推古天皇の御宇、額戸皇子の制定し給ひしものにて十七箇條あり。〔二〕立憲政體の基本を示したる國家の大法。明治廿二年我政府にて制定せられしもの。

けんぼふ

劍法(名) 劍術。●擊劍。

けんべい

靈兵(名) 軍隊の警察事務を掌る一種の兵隊。

けんべい

權柄(名) 〔一〕權政の大本。〔二〕我威力。

けんべい

源平(名) 〔一〕源氏と平氏と。〔二〕其旗の色より轉じて紅白の色をいふ。〔三〕勝負事にて敵味方兩軍の稱へ。

けんべいまめ

源平豆(名) 菓子の名。豆に紅白の衣を着せたるもの。

けんべいもも

源平桃(名) 紅白の花咲く桃。

けんへき

痲癖(名) 「一」肩の張る病。「二」之を治する術。●按摩。

けんどん

慳貪(名) 吝嗇にして怒の深き事。

けんどん

(名) 上下に溝ありて戸又は蓋を支ふる様に造りたるもの。

けんどう

劍頭(名) 兜の前立の一種。劍先の如く造れるもの。

けんたう

見當(名) 目當。●方向。

けんどう

幻燈(名) 洋式の寫し繪。

けんどう

玄冬(名) 冬に同じ。

けんたう

現當(名) 現世と來世と。●此世とあの世と。

けんたうし

●生前と死後と。○「現當二世」(佛教)遣唐使(名) 日本より唐朝へ遣はさるゝ公使。

けんち

檢地(名) 田地の丈量。

けんち

賢女(名) 賢き女。●非凡なる女。

けんち

支猪(名) ぬのに同じ。

けんち

縣廳(名) 縣内の行政事務を掌る役所。

けんち

褰帳(名) 禁中にて儀式の時御戸張を、いぐる役の人。○代始和抄「褰帳の女王二



けんちく

建築(名) 建築物を構造する事。●作事。●普請。△(動)―建築す。

けんち

絹紬(名) 織物の名。紬の一種にして支那産のもの。

げんちゅう

現住(名) 寺の當代の住職。

げんちゅう

嚴重(名) おごそかにて重々しき事。●きびしき事。△(形)―嚴重なる。(副)―嚴重に。

けむり

煙。煙(名) 火の燃ゆる時に立つ黒き氣。

けんり

權利(名) 人に對してわが思ふ如く行はしむべき道理上又は法律上の力。

けんれ

見料(名) 「一」貸本の損料。「二」賣卜者の賃金。

けんり

權(名) 權威勢力。

けむりだし

煙出(名) 竈の煙を家の外に出す口。●煙突。●煙筒。

けんりつ

縣立(名) 一縣下の公共の設立にかゝる事。

けむる

煙(自動四段) 煙の立つ。

けんなんき

驗溫器(名) 寒暖計の一名。

けんわくす

眩惑(他動サ變) 眼をくらまし心を惑は

人左右より進みて高御座の南の方の帳をかゝる

す。

懸河(名) 急流の河。

絃歌(名) 「一」琴の音と之に伴ふ歌と。「二三

味線の音と其唄と。

原價(名) 元値。●仕入直段。

見解(名) 解釋の仕方。●見込。

劍酸漿(名) 紋の名。酸漿

に劍先の形を凝みたるもの。

〔圖〕

元嘉曆(名) 曆の一種。持統

天皇の時用ひられたるもの。

嚴寒(名) 厳しき寒氣。

劍客(名) 擊劍家。

懸隔(名) 大に隔たる事。

兼學(名) 二つ以上の學術技藝を兼ね學ぶ

事。

嚴格(名) 厳しく正しき事。●嚴重。●嚴正。

△(形) 嚴格なる。(副) 嚴格に。

權輿(名) はじめ。●起り。

兼帶(名) 相兼ねる事。●兼勤。●兼務。●

兼任。△(動) 兼帶す。

けんたい

兼題(名) 兼れてより出だし置く和歌の題。

……歌會などの時當坐題に對して云ふ。

見臺(名) 書見する時書物を置く臺。

けんたい

(形。形狀言ク活) 烟に咽びて苦しき有様。●

けむし。●けぶり。

けんれい

縣令(名) 地方廳の長官。今は縣知事と稱ふ。

けんれん

眷戀(名) 深く戀ひ慕ふ事。△(動) 眷戀す。

けんそ

險阻(名) 嶮しき事。△(形) 險阻なる。(副)

―險阻に。

けんぞ

見所。見證(名) 見物。○源氏御著のけんぞゆ

るされにけるをや」△(動) けんぞす。○

著聞「孝道入道仁和寺の家にて或人と雙六

を打ちけるを隣にある越前房といふ僧來り

てけんぞす」と

けんそ

原素(名) 化學上如何なる方法を以てするも之

を分ちて異體となす能はざる萬物の成分。

其數六十餘あり。窒素、酸素などの類。

けんそん

謙遜(名) 身を卑下して人にゆづる事。●へ

りくだる事。△(動) 謙遜す。

けんそん

玄孫(名) 曾孫の子。●やしはこ。

けんそん

現存(名) 現在に生きて居る事。△(動) 現

存す。

けんそう

顯證 けせうに同じ。△(形)―けんそうの。

(又)―けんそうなる。(副)―けんそうに。

(雅)

けんぞく

眷屬(名) 「一」家族。●一族。「二」同類。

けんぞく

還俗(名) 僧籍を脱して俗人となる事。△

(動)―還俗す。

けむつかし

(形。形狀言シク活) むつかし。●氣味わる

し。○十訓抄「大なる蜂二百二百三うち

むれていくらさもなく入り集まるさまいさ

けむつかしく見ゆけり」

けんねんじがき

(名) けんにんじがきの轉。

けんなん

劍難(名) 又物の傷を受ける災難。

けんむ

兼務(名) 兼れて移むる事。●兼勤。△(動)―

兼務す。

げんうん

眩暈(名) 目まひ。●立ぐらみ。

けんなふッ

献納(名) 「一」献上に同じ。「二」奉納に同

じ。…△(動)―献納す。

げんをう

源翁(名) 鐵槌の大なるもの。

けんくわ

喧嘩(名) 「一」がやぐと騒がしき事。「二」高

聲に言ひ争ふ事。「三」轉じて争闘。●いさ

かひ。●物言ひ。●言ひ合ひ。

けんくわん

縣官(名) 縣の役人。●地方官。●縣吏。

けんくわん

兼官(名) 兼務の官職。

けんくわん

玄關(名) 「一」禪宗の寺にて客殿に入る門の

稱。◎玄妙の域に入る關門の意。「二」武家

にては式臺。「三」現今は表の上がり口。

絃管(名) 管絃に同じ。

げんくん

元勳(名) 國家に大なる勳功ありたる人。

げんや

原野(名) 野原に同じ。

げんやく

儉約(名) 約やかにする事。●節儉。△(動)―

儉約す。

けんま

研磨(名) 研ぎ磨く事。●練磨。●研究。△(動)

―研磨す。

げんまい

玄米(名) まだ春き精けぬ米。●黑米。

げんまくす

眩惑(他動サ變) げんわくすに同じ。○謠

曲「げんまくすれども騒がばこそ」

けんまごげき

肩摩轂撃(句) 人に肩と肩と摩れ合ひ

車は轂と轂と撃ち合ふの意。往來の繁きを

形容する詞。

げんけ

源家(名) 源氏の家。

げんけん

權限(名) 法律上の詞。權利の區域。

けんげん
けんぶ

建言(名) 建白。●建議。

劍舞(名) 劍を抜き詩吟に合はせて舞ふ事。●

轉じては劍なくとも詩吟に合はせてする舞を云ふ。

けんぶ
けんぶ
けんぶ

絹布(名) 絹織物の總名。

玄武(名) 四神を見よ。

見佛(名) 佛の姿を目に見る事。○謠曲「見佛聞法のかすく」(佛教)

けんぶつ

見物(名) 「一」慰みの爲めに物を見る事。●

遊覽。△(動)―見物す。「二」見物する人。

●觀客。

けんぶん
けんぶん
けんぶん

見分(名) 其筋の検査。△(動)―見分す。

見聞(名) 見る事と聞く事と。△(動)―見聞す。

けんぶん

原文(名) もとの文章。…翻譯、添削、謄寫

なごに對して云ふ。

けんぶん
けんぶん
けんぶん

言文(名) 言語と文章と。

元服(名) 幼少の姿を替へて大人の姿に爲る

事。又其時の儀式。時代と境界とによりて差別あり。「一」公家にては髪を上げ始めて冠を被る事。「二」武家(徳川時代)にては前

けんご

髪を剃り落す事。…(以上は男子)「三」女子にては眉毛を剃り齒を染むる事。

堅固(名) 「一」かたき事。●たしかなる事。●丈夫なる事。「二」健康。

けんご
けんご

言語(名) 言葉。

原語(名) 「一」本原の言語。…轉訛せる言語に對して。「二」本文の原語。…譯語に對して。

けんご

源語(名) 源氏物語の略稱。

けんごらうぶな

源五郎鮓(名) 魚の名。鮓の一種にして琵琶湖に産するもの。

けんこつ

拳骨(名) 堅く握りたる拳。

けんこん

乾坤(名) 天地。

けんこん

現今(名) 只今。●當今。●目今。●目下。

けんかう

健康(名) 身體のすこやかなる事。●無病。

けんかう

權衡(名) 「一」分銅と秤竿と。「二」總べて物事の釣り合。

げんかう

原稿(名) 出版物の草稿。

げんかう

言行(名) 言語と行ひと。

げんかう

現行(名) 現在に行ふ事。●現に行はるゝ事。

げんかうはん

現行犯(名) 法律上の詞。目前に犯した

る罪。

けんこく 建國(名) 國家の基を建つる事。●立國。

けんこく 原告(名) 民事の起訴人。●訴人。

けんこく 牽牛花(名) けんきうくわに同じ。

けんこく 牽牛子(名) 牽牛花に同じ。

けんえい 卷纒(名) 「一」内へ卷き込み

たる冠の纒。「二」卷纒にし

たる冠。……老懸の冠にし

て五位以上の武官之を着す。

●まさえい。(圖)



けんえつ 檢閱(名) 檢査。●調査。△(動)―檢閱す。

けんてい 檢定(名) 檢査して其可否を定むる事。△

(動)―檢定す。

けんてん 圈點(名) 文章詩歌の右傍に注意を呼び起す

爲め附くる小さき丸。

けんざ 檢査(名) 改め調ぶる事。△(動)―檢査す。

けんざ 驗者(名) 病氣などの祈禱を執行する僧。(雅)

けんざい 現在(名) 「一」只今。●目前。●實際。「二」

語學上の詞。現在の時をあらはす動詞。

けんざい 原罪(名) 先祖より遺傳し來れる罪。(基督

教)

けんざいのう

現在能(名) 能樂の一種。天人幽靈などならぬ此世の人事を仕組みたるもの。

けんざん

見參(名) 「一」對面の敬語。●拜謁。△(動) 見參す。「二」御覽に入る事。

けんざき

劍先(名) 「一」劍の切先。「二」模様の名。劍先の形を連れたるもの。(圖)

けんぎ

建議(名) 「一」意見を其筋に上申する事。●建白。「二」意見を會議などに提出する事。



けんぎ

嫌疑(名) 疑がはしく思はる事。元氣(名) 心神の活潑なる事。

けんぎ

言語(名) けんこに同じ。こさば。●ものいひ。けんき 牽強(名) 強ひて其事に牽き附くる事。

●こじつけ。

けんけ

顯教(名) 表面に理義の知るやうに説きたる教。●秘密を説かざる教。●經文中に陀羅尼を説かざる教。……密教を參考せよ。

(佛教)

けんぎ

檢校(名) 「一」僧の役名。高野山などにて一寺を監査する役。「二」盲人に賜はる一

の資格。○「増檢校」

けんぎ^{ギョウ}う

現形(名) 神佛の形を現はす事。

けんぎ^{ギョウ}うす

唸唱(自動サ變) あざさふに同じ。

けんきん

獻金(名) 金を獻する事。△(動)―獻金す。

けんきん

現金(名) 「一」手形切手などに對して云ふ。

現在の金圓。●正金。「二」品物と引換に代

けんぎん

現銀(名) 徳川時代の詞。現金に同じ。

けんきん

嚴禁(名) 嚴しく禁止する事。●△(動)―嚴

禁す。

けんきこたつ

劍氣禪脫(名) 雅樂の曲名。

けんきこう

研究(名) 明らかに究むる事。●委しく取調

ぶる事。△(動)―研究す。

けんぎこう

牽牛(名) 星の名。七夕の夜に男女相逢ふ

さいふ其男性の星。畫に牛を牽きたる神

けんぎこく

牽牛花(名) 朝顔の異名。

けんみ

檢見(名) 「一」毛見に同じ。「二」大追物の審判官。

けんみつ

顯密(名) 顯教と密教と。(佛教)

けんみつ

嚴密(名) 嚴重精密なる事。△(形)―嚴密な

る。(副)―嚴密に。

けんし

檢使(名) 檢閱の役目の使。

けんし

屍屍(名) 屍體の檢査。變死などの場合にす

事。

けむし

毛蟲(名) 虫の名。全身に毛ありて足の多き蟲

の總名。木の葉を食ひて蛹と變し蝶と化す

るもの。其毛もて人を螫し常に忌み嫌は

けむし

る。(形。形狀言ク活) けむたしに同じ。

けんじ

檢事(名) 現今の官名。人民の犯罪を告發する

役目。

けんじ

劍璽(名) 三種の神器の内。草薙劍と八尺瓊勾

玉と。

けんし

眼子(名) まなこ。

けんし

原書(名) 譯書に對して譯せらるゝ原の書物を

いふ。

けんし

嚴暑(名) 嚴しき暑氣。

けんし

勳賞(名) 勳功の賞譽。

けんし

懸賞(名) 賞品を懸くる事。

けんせう

顯證(名) けんせうに同じ。(雅)

けんじ

獻上(名) 貴人に物を奉る事。●獻納。△

(動)―獻上す。

げんし^{やシヨウ}

眼象(名) 三方の剗形^{くわがた}なごに

げんし^{やシヨウ}

用ふる彫抜の穴の稱。(圖)



げんせ^{シヨウ}う

減少(名) 減りて少なくなる事。又減らし

げんじ^{やシヨウ}う

て少なくする事。(動) 減少す。

げんじ^{やシヨウ}うらく

玄上(名) 古代琵琶の名。村上天

皇の御物。

還城樂(名)

げんじ^{やシヨウ}うのまじ

雅樂の曲名。蛇を捕ふ

る形を

演ずる

もの。

(圖)

賢聖障

げんし^{よく}

子(名)

顯職(名)

高貴なる官職。

源名(名)

三字以上の婦人の名前。まつた



げんしん

權臣(名) 權柄を握り居る臣下。●きりもの。

げんじん

原人(名) 有史以前の太古の人類。

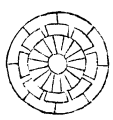
げんじぐるま

源氏車(名) 「一」御所車^{ごしよくるま}

一名。◎源氏繪に多く畫が、

れたる故の名。(二)紋の名。車

輪を畫がきたるもの。(圖)



げんじかう

源氏香(名) 香の一種。源氏物語の巻の名

を以て符號としたるもの。

げんじあ

源氏繪(名) 源氏物語の文意を畫がきたる

繪。

げんしき

見識(名) 自個特有の見込ある考。●獨立の

意見。

げんじちごく

劍樹地獄(名) 地獄の一種。此地には枝

葉花實こさく刀劍にて成りたる林あり。

其邊を過ぐる時は豺狼來りて食はんとす。

よりて樹に登れば其及下に向ひて身を

刺し。又下らんすれば其及上に向ひて肉

を破るさいふ恐ろしき世界。(佛教)

けんじのつ

劍術(名) 刀にての試合を習ふ技術。●劍法。

●劍道。●鑿劍。

げんじのつ

幻術(名) 魔術。●妖術。●魔法。

けんしのんもん

建春門(名) 昔の内裏御門の一つ。左衛門府のあるところ。

けんしんしゅう

献酬(名) 盃の取り遣り。△(動)―献酬す。

けんび

兼備(名) 兼ね備ふる事。△(動)―兼備す。

げんび

原被(名) 訴訟人の原告と被告。

けんびるし

(名) 檢非違使の音を強めて云ふ詞。

けんびやヒョウ

硯屏(名) 文房具の名。硯の塵除に立つる小さき衛立の如きもの。

けんびきやキョウ

顕微鏡(名) 眼鏡の一種。極めて細きものを見るに用ふるもの。

けんびし

劍姿(名) (一)紋の名。葵の四隅を染せたるもの。(二)酒の名。

けんもつ

監物(名) 中務省に屬し、禁中御門の出入を監察する役。大、中、少の三等あり。●おろしもの一つかさ。

けんもん

權門(名) 高位高官の家。

けんもん

見聞(名) みきい。●けんぶん。

げんもん

諺文(名) 朝鮮古代の文字。吏道より出て、吏道よりは新體なるもの。

げんもんし

絹紋紗(名) 縦横共に練りたる花の紋ある紗。○「絹紋紗の直垂」

げんせ

現世(名) 現存して居る間の世。●此世。(佛教)

けんせい

權勢(名) 權力と威勢と。

けんぜん

健全(名) 無病。●健康。●丈夫。●達者。△(形)―健全なる。(副)―健全に。

げんぜん

現然(副) 現に。●現在に。

げんぜん

泣然(副) 涙を流す有様。

けんぜんがく

健全學(名) 學科の名。衛生學に同じ。

けんせき

譴責(名) 過失を叱り責むる事。△(動)―譴責す。

げんせき

原籍(名) 寄留地に對して本籍の所在地をいふ。

けんず

兼(他動サ變) 兼ねる。●兼務する。○正統記「中務の卿をけんぜさせ給ふ」

けんず

獻(他動サ變) たてまつる。●献上する。

けんず

減(他動サ變) へらす。●へす。

けんず

現(自動サ變) あらばるい。●出現する。

けんず

減(自動サ變) へる。●減少する。

げんする

元帥(名) 軍の總大將。●總督。●提督。

けう

キョウと發音する詞はきの部にあり。

けう

希有

まれなる事。●めづらしき事。●稀代。●不思議。(形)希有の。○宇治「希有のわざする男かな(又)「希有なる(副)「希有に。

けうとし

(形。形狀言ク活) 「一」うとまし。●疎遠な。(二)人遠し。●人氣の無き。

けうら

(名)

きよらに同じ。清き事。●清潔。●清淨。●美麗。○榮花「けうらを盡して△(形)「けうらなる。(副)「けうらに。○空穗「内侍のすけいさけうらにさうぞきて」

けのにこもの

毛柔物(名) 毛の柔かくして小さき獸類。又は鳥類。(祝詞式)

けののぼる

(句) のぼせる。●逆上する。(落窪)

けのふみ

夏文(名) 眞宗にて蓮如上人の御文をいふ。

けのあがる

(句) けののぼるに同じ。(蜻蛉)

けのあらもの

毛荒物(名) 毛の荒くして大なる獸類。

けくにものま

うすま。うちきみ 申食國政大夫(名) 上

けくるま

古國務大臣の稱。

けくるま

毛車(名) 絲毛の車に同じ。

げく

外科(名) 外部の治療を主とする醫術。

げく

外官(名) 地方官。

げく

下官(名) 位地の卑き官人。

げく

毛氈(名) 古代軍陣用の氈。黒色の毛皮にて造り大將たる人の履くもの。

げく

外宮(名) 伊勢の豊受太神宮。……内宮に對して云ふ。

げく

外宮(名) げくうに同じ。

げや

(副) げやけき有様(組)

げや

(形。形狀言ク活) 際立つて目に付く有様。●際立つてよし。●際立つて強し。●際立つて長し。……等の類。●殊勝な。(雅)

げや

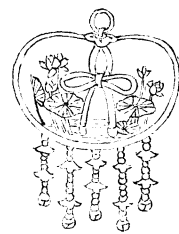
樺(名) 木の名。材は堅く木理美しくして建築

げま

蹴鞠(名) 「一」鞠を蹴る遊戲。●しうきく。(二)其遊戲に用ふる鞠。革にて造れるもの。

げま

華鬘(名) 天竺女子の首飾より出で



今は佛前の裝飾に用ふる金銀製の花の鬘(圖)

けけれ

(名) 心の轉(古今)

けけつ

下血(名) 血液の下痢するもの。

げけん

化現(名) 神佛の假に人間の姿になりて形を現はす事。

げけん

下弦(名) 陰曆二十日以後の弓張の月。

げけん

下元(名) 十一月十五日の稱。此日はよく祝事に用ひらる。……正月十五日を上元七月十五日を中元さいふに對して。

けけし

(形。形狀言シク活) きはくし。●きはだつて居る。●けざやかである。●てきはきとし

である。○源氏「殿も用意こそに少しけしきさまにもてなし給ひて」

けふ

キヲウと發音する詞はきの部にあり。

けぶり

烟。煙(名) けむりに同じ。

けぶる

烟。煙(自動四段) けむるに同じ。

けぶかし

毛深(形。形狀言ク活) 毛の多く生ねたる有様。

けぶたし

(形。形狀言ク活) けむたしに同じ。

けこ

華籠(名) 佛事供養の時花を盛る籠。(圖)

けこ

家子(名) 家族。(竹取)

けこ

筍子(名) 飯を盛る器。○伊勢「手づから飯七取りてけこの器物に盛りたるを見て」



げこ

下戸(名) 酒を嗜まぬ事又は其人。

げころも

毛衣(名) 「一」毛皮にて造りたる衣服。「二」又は鳥の羽毛を衣に見立て、いふ稱へ。○「鶴の毛衣」鴨の毛衣」

げころも

襲衣(名) 襲の時に着る衣。●常服。●不斷着。○和泉式部集「此衣の色白妙になりぬさもしづ心あるげころもにせよ」

げこん

華嚴(名) 「一」華嚴經。「二」華嚴家。

げこんぎ

華嚴經(名) 經文の名。釋迦の最初に説きたるもの。(佛敎)

げこんしゅう

華嚴宗(名) 佛敎宗派の名。聖武天皇の御宇に僧良辨の創めて弘めたるもの。(佛敎)

げかう

下向(名) 「一」都より地方に行く事。「二」神社に參詣して歸路に就く事。……△(動) ↓下向す。

げかうだう

下向道(名) 下向する道。

けこく

下國(名) 「一」上國に對して他の國をいふ。……

…上國を見よ。(二)都より國元に下る事。●
歸國。

げこく

下刻(名) 昔し一時間を三つに分けて其前に屬するを上刻と稱へ中に屬するを中刻と稱へ後に屬するを下刻と稱へたる其稱へ。○「寅の下刻」「巳の下刻」。

げこくじやシヨウ

下刻上(名) 下たるものゝ身として上を凌ぎ停る事。○盛衰「西光が我一人と奉行して申振舞ひしこと下刻上の至なりと不思議に存じ候ひき」

けてん

化天(名) 三十三天の一つ。(佛教)

けてん

外典(名) 佛教にて他の教。特に儒教の書物ないふ稱。……内典に對して。

けでん

下田(名) 下等なる田地。●收獲の少なき田地。下殿(名) 殿を下る事。△(勅)下殿す。○代

始和抄「内辨下殿して公卿の列に立ちかはる」

けあひひ

藏合(名) 鶏などの藏合ふ事。

けあがる

(句) のぼせる。●逆上する。(雅)

けあな

毛穴(名) 皮膚にある數多の小穴。是より毛生じ又汗を排泄す。

げあんこ

夏安居(名) 夏に同じ。……安居を參考せよ。袈裟(名) 梵語より來る。◎僧の衣の上に掛くる

げさ

衣。

げさ

今朝(名) 今日今朝。●こんでう。

げさ

下座(名) 「二」貴人を敬禮するためすわる事。●

下居。「二」下等の席。●末座。

げさい

(名) 潔齋に同じ。(大鏡)

げさい

解齋(名) 物忌を解く事。

げさげ

下劑(名) 下し藥。

げさん

袈裟懸(名) 人を殺す時僧の袈裟を懸けたる如く肩より斜に切り下ぐる事。

げさん

卦算(名) 紙おさへ。文鎮の類。

げさん

下山(名) 山を下る事。……登山に對して。△

げさん

(勅)下山す。

げさん

見參(名) げんさんに同じ。

げさのはる

今朝春(名) 春の來れる日の朝。

げさのあき

今朝秋(名) 秋の來れる日の朝。

げさく

戲作(名) 「二」戲の著作。「二」小説。

げさく

(名) 外戚に同じ。(雅)

げさくしゃ

戲作者(名) 小説家。

げさやか

はつきりしたる有様。●きら／＼しき有様。●

けさやぐ

さや。●きはや。△(形)けさやかなる。
(副)「けさやかに。○枕「日はいさけさやかに照りたるに」

(自動四段) けさやかなる。●物に際を立つる。(源氏)

けさげさ

(副) はつきりさ。●きら／＼さ。●けさやかに。○源氏「月の花やかにさしいで

げき

外記(名) 太政官の官吏にて。天下の事を記録し。宣旨を書く等の事を掌る役。大少の二等あり。●このしるすつかさ。

げき

鶴(名) 鳳凰の類の鳥の名。よく高く飛ぶものなり。て舟の軸先の飾に付く。

げき

劇(名) 芝居。劇(名) 烈しき事。●急劇。●劇殺。△(形)「劇なる(副)「劇に。」

げき

檄(名) 人を奮起させ勧誘するために送る文書。隙(名) 「一」間隙。●ひま。「二」不和。

げき

激論(名) 激しての議論。激(名) 逆浪(名) 大浪。●怒濤。

げき

逆徒(名) 逆臣。さやくさに同じ。逆臣。

げき

げきどう

激動(名) 激して動く事。△(動)「激動す。劇場(名) 劇を演ずる場所。●芝居。

げきりん

逆鱗(名) 天皇の御怒。毛際(名) 毛の生えてある所さなき所さの堺目。

げきは

げき

懸魚(名) 屋根の兩端破風の上に懸けて桁の端を被ふもの。

げきよう

(副) 清く。●さつぱりさ。●きれいに。(雅)現形(名) 神佛鬼などの形を現はす事。△

げきやう

(動)「げきやうす。(伊勢)下行(名) 賜もの。(前太平記)

げきよし

(形。形状言ク活) 清し。(雅)撃柝(名) 拍子木を撃つ事。

げきたく

激烈(名) 極めて烈しき事。●猛烈。△(形)「激烈なる。(副)「激烈に。」

げきつ

撃剣(名) 劍術に同じ。檄文(名) 檄の文章。

げきぶん

逆臣(名) さやくしん。●謀反人。●反臣。鷓首(名) 鷓の頭。之を鷓の飾に付くるゆゑ舟

げきしん

の異名としても用ふ。劇戦(名) はげしき合戦。

げきせん

けきす

鷄首(名) けきしきに同じ。

激(自動サ變)

「(一)他の物事に衝かれ刺され撃たれなどして劇しくなる。(二)他の刺撃を受けて怒氣を催す。

げゆ

解由(名)

國司など交代の時、後任より前任に出だす租税等引渡の領收證。

げゆじゃしょう

解由狀(名)

解由に同じ。

けめ (助動)

けんの轉。○後撰「唐衣たつを惜みし心こそ二村山の關となりけめ」

げめんによぼさう

外面如菩薩(句) うはへには菩薩の如く柔和に見ゆる意。

けみ

毛見(名)

●檢見。稻作の出來を巡見する事。又其の役人。

けみち

襲道(名)

馬術の詞。ちみちに同じ。

けみやう

家名(名)

苗字。

けみやう

假名(名)

假の名稱。●變名。

げみやうぶ

外命婦(名) 五位以上の人の妻をいふ稱へ。……内命婦を參考せよ。

けみす

閱(他動サ變)

「(一)あらため見る。●檢査する。

けし

罌粟。芥子(名)

●けんぶんする。(二)見る。●檢査する。草の名。葉は莖に似て夏の初四

けし

家司(名)

けいしに同じ。

けし

消(名)

消す事。●取消。

けし

(形。形狀言シク活)

「(一)異なりたる。●普通ならす。○けしき心(二)わろし。○蜻蛉「けしうついましき事なれども」

げし

夏至(名)

季節の名。二十四節の一つ。太陽の赤道より北二十三度半に直射する處にありて晝最も長く夜最も短き時。現今の曆にては六月廿一二日の頃にあり。

けしん

消印(名)

印紙類など消す爲に押す印。

げしにん

解死人(名)

下手人の轉。◎人殺の犯罪者。

けしばうず

芥子坊主(名)

小兒の頭の剃り方の名。頂に毛を丸く殘して周圍を剃り落したるもの。

けしかる

(形)

「(一)異なる。●不思議なる。(二)けしからぬに同じ。

けしからぬ

(形)

あきるゝ程の。●以ての外の。●甚だ不都合なる。

けしからず

(副)

あきるゝ程に。●以ての外に。●甚だ不都合に。

けし

下書(名)

したがき。

けし

化粧(名)

白粉、紅などを用ひて顔を粧ふ事。●お仕舞。●おつくり。●けはひ

△(動)―化粧す。

けし

化生(名)

本體を變じて人間などに化くる事。又其化けたるもの。●ばけもの。●妖怪。○謡曲「化生と見るよりも。枕にありし藤丸を抜き開きちやうと切れば」

けせ

顯證

あらは。●はつきり。●ばれぐし。

(形)―けせうなる。(又)―けせうの。(副)―

けせうに。○源氏「南の町には云々いきはひ殊に住み満ち給へばけせうに人しげくもあるべし」

げし

下姓(名)

生れの賤しき事。(今昔)

げし

偈頌(名)

偈に音楽を合はせ奏するもの、稱。

げじよう

下乗(名)

城門又は神社などにて乗物より下る事。又は其下るべき場所。●下馬。

けし

(名)

軍陣用袴の一種。四幅にて作

けしたる

(形)

りたる袴。

怪しき。●不思議の。●異形の。○謡曲「串ふ燈の影よりも。けしたる人の來りたり。夢が現か見たりさもなき姿かな」

けしん

化身(名)

佛の假に人間などに化して現はれたる身。

けしうは

(旬)

わるくはあらず。●よい加減である。●普通の例である。●是よりすぐれたる物はない。●外にはない。○源氏「けしうはあらぬおもこの丈立かな」同「もてつけて見るまいに心もけしうはあらずかし」

げし

牙舍利(名)

舍利に同じ。●佛骨(謡曲)

げし

(名)

外戚に同じ。(雅)

けし

芥子燒(名)

護摩を焚く事。○芥子の實を焚く故の名。(雅)

げじ

蛸蛭(名)

虫の名。百足に似て百足より身小さく短く足長く床下など濕地の處に生ずるもの。

けし

氣色(名)

〔一〕様子。●有様。●模様。〔二〕顔色〔三〕機嫌。

けし

景色(名)

景。●風景。●眺望。

けしきばかり

(副) しろしほご。●言譯ほご。●少しばかり。○源氏「けしきばかり打しぐれて」榮

花「笛けしきはかり吹きすさびて」

けしきばむ

(自動四段) けしきだつに同じ。(雅)

けしきばまし

(形。形言シク活) けしきだちたる有様。(源氏)

けしきだち

氣色取(自動四段) 「一」けしきだつに同じ。(二)けしきだちて恨む。●嫉妬する。…

…(雅)

けしきだつ

氣色立(自動四段) 「一」様子に現はる。●表面に見ゆる。○枕「女房に歌よませ給へば皆けしきだちゆるかし出だすに」(二)其様子の十分に見ゆる。●其氣色の整ひて見ゆる。○源氏「初時雨いつしかさけしきだつに」

けしきたまはる

氣色賜(自動四段) 機嫌を伺ふ。●機嫌を取る。(雅)

けしきづく

氣色付(自動四段) けしきだつに同じ。(雅)

げしゅにん

下手人(名) 人殺の犯罪者。(著聞)

げしゅん

下旬(名) 月の末十日。

げしゅく

下宿(名) 「一」宿に下る事。「二」下宿屋。

げしゅくや

下宿屋(名) 長く寄宿する人を泊らする宿屋。

けじゅうす

毛織子(名) 織物の名。織子に似て下品なるもの。

げしせん

夏至線(名) 赤道より北二十三度半にある想像の線。太陽の此線上に直射する時は即ち北半球の盛夏なり。●北回歸線。

けしずみ

消炭(名) 炭の一種。焚き落しの火を消して作りたるもの。

けびろし

檢非違使(名) 非違を檢し訴訟を判し刑罰を行ふ役。又は其役所。淳和天皇の御世此職を置かれしより。衛府の管せし追捕の任と彈正の管せし糾彈の任と。刑部の管せし判

斷の任と。京職の任せし訴訟の任と。共に其機檢非違使の廳に歸したり。官吏は別當、佑、尉、志、府生あり。

けびろしのち

檢非違使廳(名) 檢非違使の役所。

げびる

下卑(自動一段) 下品に見ゆる。●品格の下る。

けびやビョウ

花瓶(名) 佛前の花立。

けびやヒヨウ

假病(名) 病氣を稱して人を欺く事。●作病。

げひん

下品(名) 品格の下れる事。●下等△(形)―下品なる。(副)―下品に。

けびき

罪引(名) 罪を引く事。

けびきおとし

毛引織(名) 鎧の織の名。毛糸にて織したるもの。

けもんりょう

花紋綾(名) 花の紋を織り出だせる綾。

けまう

希望(名) きばうに同じ。

けもの

畜獸(名) 「一」家に飼ふ獸。牛馬犬猫の類。●家畜。(二)けだもの。

けものへん

(名) 漢字の狼、狸等の左にある部分の稱。身柄の低き事。●いやしき事。△(形)

げせん

下賤なる。(副)―下賤に。

けす

消(他動四段) 消ぬしむる。●消やす。

けす

着(他動四段) 着るの敬語。●着給ふ。●おめ

しになる。○記「その御姨の御衣御裳をけして」

けす

化(自動サ變) 化くる。●變ずる。

けす

下種。下衆(名) 卑しき身分の人。●下等の人。

げす

解(他動サ變) 理解する。●合點する。

げすゐ

下水(名) 汚水を流し捨つる溝。●ごぶ。

げすぢ

毛筋(名) 髪の本づいの筋。

げすげすし

(形。形狀言シク活) 下種しみたる。●下等らし。●下品なる。○源氏「いさむくつけくけすくしき女とおぼして」。

